

2020年度「愛知県内の外国人学校に対する調査」について（ブラジル人学校編）

1 調査概要

本書は、「2020年度『愛知県内の外国人学校に対する調査』について」のうち、ブラジル人学校から得た回答のみを抽出したものである。

2020年5月1日現在、愛知県内に13校のブラジル人学校の所在を確認しており、1,140人の生徒（内631人が義務教育年齢）がブラジル人学校に在籍している。  
※生徒数については、13校のうち調査の回答が得られた11校分（通信制を除く）の人数。

〈調査学校一覧〉

No.	学校名	所在地
1	伯人学校イーエーエス豊橋	豊橋市
2	伯人学校イーエーエス豊田	豊田市
3	伯人学校イーエーエス碧南	碧南市
4	学校法人カンティーニョ学園	豊橋市
5	エスコラ・ネクター	豊田市
6	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸	瀬戸市
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	安城市
8	エスコラ・ピントンド・オ・セテ	豊田市
9	コレジオ・エマヌエウ	半田市
10	エスコラ・セメンチーニャ・ジェズス	碧南市
11	カンティーニョ・ダ・チーア・シェシエラ	岡崎市
12	エスコラ・エジャ・インテラチーヴォ豊橋（通信制）	豊橋市
13	コレジオ・ブラジル・ジャパン（通信制）	名古屋市

備考：今年度は、昨年度の調査対象校に加え、通信制の学校も調査の対象とした。コレジオ・ブラジル・ジャパンについては調査対象としたが回答が得られなかった。

## 2 集計結果

### (1) 各学校の基本情報

#### ア 提供課程

下記表にある基礎とは、ブラジルにおける、通常6歳から始まる9年間の義務教育課程のことを指す。前半5年を基礎教育Ⅰ、後半4年を基礎教育Ⅱとして分けられており、日本の学校の小1～中3に相当する。また、中等とは日本の学校の高1～3に相当する課程のことを指す。

No.	学校名	就学前	基礎	中等
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○	○	○
2	伯人学校イーエーエス豊田	○	○	○
3	伯人学校イーエーエス碧南	○	○	○
4	学校法人カンティーニョ学園	○	○	○
5	エスコラ・ネクター	○	○	○
6	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○	○	○
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	○	○	○
8	エスコラ・ピントンド・オ・セテ	○	○	×
9	コレジオ・エマヌエウ	○	△※ <sup>1</sup>	×
10	エスコラ・セメンチーニャ・ジェズス	○	△※ <sup>1</sup>	×
11	カンティーニョ・ダ・チーア・シェシェラ	○	×	×
12	エスコラ・エジャ・インタラチーヴォ豊橋（通信制）	×	○	○

※<sup>1</sup>基礎教育Ⅰまでの受入れ

#### イ 授業について

ブラジルの学校は通常半日制（平均1日5時限）であり、午前と午後とで対象学年を変えて授業を行う。中には、半日制ではなく、1日授業を行う学校もある。授業の開始時間は早いところで午前7時から、終了時間は遅いところで午後6時までだが、保護者の出勤状況に合わせて授業前後の時間に生徒を預かっている学校も確認された。

#### ➤ 各教科の提供状況は以下のとおり

国語※	数学	歴史	理科	物理	科学	生物	地理
12	12	11	12	10	9	8	11
哲学	社会	英語	体育	美術	日本語	情報	スペイン語
9	8	12	10	11	11	6	1
その他	4	文学、読書、作文、経営等					

※ポルトガル語

#### ➤ 各学校の運営日は以下のとおり

No.	学校名	月	火	水	木	金	土	日
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○	○	○	○	○	×	×
2	伯人学校イーエーエス豊田	○	○	○	○	○	×	×
3	伯人学校イーエーエス碧南	○	○	○	○	○	×	×
4	学校法人カンティニーニョ学園	○	○	○	○	○	×	×
5	エスコーラ・ネクター	○	○	○	○	○	×	×
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○	○	○	○	○	×	×
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	○	○	○	○	○	×	×
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セテ	○	○	○	○	○	×	×
9	コレジオ・エマヌエウ	○	○	○	○	○	×	×
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス	○	○	○	○	○	×	×
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シエシエラ	○	○	○	○	○	×	×
12	エスコーラ・エジャ・インタラチーヴォ豊橋（通信制）	○	○	○	○	○	○	×

➤ 各学校の運営時間は以下のとおり

No.	学校名	学校全体	就学前	基礎		中等	
1	伯人学校イーエーエス豊橋	08:00～17:00	08:30～17:00	08:30～17:00		08:30～17:00	
2	伯人学校イーエーエス豊田	08:30～17:00	08:30～17:00	08:30～17:00		08:30～13:00	
3	伯人学校イーエーエス碧南	08:30～17:00	08:30～17:00	(午前クラス) 08:30～13:00	(午後クラス) 13:00～17:00	(午前クラス) 08:30～13:00	(午後クラス) 13:00～17:00
4	学校法人カンティニーニョ学園	08:00～17:30	08:00～11:30	08:00～11:55		12:05～16:50	
5	エスコーラ・ネクター	09:00～15:00	09:00～17:00	09:00～17:00		09:00～15:00	
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	08:00～18:30	08:45～15:15	08:45～15:15		08:45～15:15	
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	07:00～18:00	08:45～16:00	08:45～15:40		08:45～14:40	
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セテ	07:00～18:00	07:00～18:00	07:00～18:00			
9	コレジオ・エマヌエウ	08:00～17:00	08:00～17:00	08:00～17:00			
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス	07:00～18:00	07:00～18:00	07:00～18:00			
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シエシエラ	08:00～17:00	08:00～17:00				
12	エスコーラ・エジャ・インタラチーヴォ豊橋（通信制）	9:00～17:00		9:00～17:00		9:00～17:00	

## ウ 教職員数

多くの学校は日本人の教員を雇用している。主に日本語学習の担当や、必要に応じて学校の窓口として運営に必要な書類や情報の収集を行っている。

➤ 調査対象の12校における各学校の教員数は以下のとおり

No.	学校名	教員数				従業員		教職員 合計
		日本人		外国人		日本人	外国人	
		教員免許有	教員免許無	教員免許有	教員免許無			
1	伯人学校イーエーエス豊橋	2	0	13	0	0	9	24
2	伯人学校イーエーエス豊田	2	0	12	0	0	10	24
3	伯人学校イーエーエス碧南	2	0	19	0	0	9	30
4	学校法人カンティニーニョ学園	1	0	8	3	0	9	21
5	エスコーラ・ネクター	1	0	3	0	0	3	7
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	1	0	4	0	0	0	5
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	2	0	8	4	0	3	17
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セテ	1	0	6	0	0	4	11
9	コレジオ・エマヌエウ	0	0	4	1	0	0	5
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス	0	1	4	4	0	3	12
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シェシエラ	1	0	8	0	0	2	11
12	エスコーラ・エジャ・インテラチーヴォ豊橋（通信制）	0	0	4	0	0	14	18
小計		13	1	93	12	0	66	185

## エ 認可状況

ブラジル本国からの認可はブラジル教育省が管轄している。日本の認可基準は各都道府県によって異なっており、認可された外国人学校は各種学校として扱われる。

今回の調査において、日本国による認可への申請意向は未認可校6校中2校のみであり、その原因として、多くの学校が基準を満たすのが難しいからという理由を挙げた。

### ➤ 調査対象の12校における各学校の認可状況は以下のとおり

No.	学校名	他国政府認可	認可された課程			各種学校認可	
		有無	基礎	中等	その他	有無	意向有
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○	○	○	就学前	○	-
2	伯人学校イーエーエス豊田	○	○	○	○	○	-
3	伯人学校イーエーエス碧南	○	○	○	-	○	-
4	学校法人カンティニーニョ学園	○	○	×	-	○	-
5	エスコラ・ネクター	○	○	○	-	×	○
6	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○	○	○	-	×	×
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	○	○	○	-	×	○
8	エスコラ・ピントンド・オ・セテ	○	○	×	-	×	×
9	コレジオ・エマヌエウ	○	○	×	-	×	×
10	エスコラ・セメンチーニャ・ジェズス	×	-	-	-	-	-
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シェジェラ	-	-	-	-	-	-
12	エスコラ・エジャ・インタラチーヴォ豊橋(通信制)	○	○	○	-	×	×

ブラジル人学校の場合、ブラジル教育省における認可を受けていない過程において、教育課程を修了した者については、学校が発行する書類の適切な手続きを行えば(翻訳、アポストイーユ取得、公印認証等)その課程を修了したこととして認められる。今回の調査では、その手続きを行ったことにより、本国で進学できたという例があった。

オ 教育環境

教育環境の詳細として校地の保有やグラウンドの有無状況を質問した。校舎は主に賃借であった。また、グラウンドについては、市町村の施設を利用している学校もあった。

➤ 各学校の教育環境の状況は以下のとおり

No.	学校名	校地の状況		校舎の状況		グラウンド	
		保有	賃借	保有	賃借	有	無
1	伯人学校イーエーエス豊橋		○		○	○	
2	伯人学校イーエーエス豊田	○		○		○	
3	伯人学校イーエーエス碧南		○		○	○	
4	学校法人カンティニーニョ学園	○		○		○	
5	エスコラ・ネクター		○		○	○	
6	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸		○		○		○
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール		○		○		○
8	エスコラ・ピントンド・オ・セテ		○		○		○
9	コレジオ・エマヌエウ		○		○	○	
10	エスコラ・セメンチーニャ・ジェズス		○		○		○
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シェシエラ		○		○		○
12	エスコラ・エジャ・インタラチーヴォ豊橋（通信制）		○		○		○
合計		2	10	2	10	6	6

A校：学校の敷地にはグラウンドはないが、近くには地域の小さな公園やグラウンドがあるので無償で利用させてもらっている。利用させてもらう代わりにお掃除などをして協力している。

B校：学校にグラウンドがないため、体育の授業のために市のコートを2つ借りている。

C校：学校の敷地にグラウンドや体育館がないため、市の施設を借りているが、抽選であるため、月に1度しか借りられないときもあるので困っている。体育の授業を断念する日が多々ある。一度、近くの公立学校に掛け合ってみてはというアドバイスを受けたが、使わせてもらえる時間帯が夕方か、土日のみである。

## カ 月額授業料

教育課程や半日か1日かで月謝は異なり、学校毎に独自の金額を設定している。そのため月3万～5万が平均的な月額授業料となっている。さらに、教材費、食費や送迎日が別料金となっている場合もある。また、兄弟が同じ学校に通っている場合は兄弟割引が適応されている学校もある。

➤ 各学校の月額授業料は以下のとおり

No.	学校名	就学前		基礎		中等
		半日	1日	基礎 I	基礎 II	
1	伯人学校イーエーエス豊橋	¥37,000		¥32,000		¥42,000
2	伯人学校イーエーエス豊田	¥37,000		¥32,000		¥42,000
3	伯人学校イーエーエス碧南	¥37,000		¥32,000		¥42,000
4	学校法人カンティニーニョ学園	¥28,000	¥36,000	¥28,000～¥36,000	¥28,000	¥28,000
5	エスコラ・ネクター	¥38,000	¥50,000	¥38,000	¥50,000	¥35,000
6	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸	¥24,500		¥24,500		¥24,500
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	¥47,000		¥34,000		¥28,750
8	エスコラ・ピンタンド・オ・セテ	¥46,500		¥46,500		
9	コレジオ・エマヌエウ	¥44,000		¥44,000		
10	エスコラ・セメンチーニャ・ジェズス	¥40,000		¥40,000		
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シエシエラ	¥37,000				
12	エスコラ・エジャ・インテラチーヴォ豊橋 (通信制)			¥23,850		¥23,850
平均		¥38,615		¥35,404		¥33,263

## (2) 経営状況

ブラジル人学校場合、過半数は、児童生徒からの月謝のみで学校を運営しており、児童生徒の増減によって学校の経営状況が左右される。

今年度の児童生徒数は前年度に比べると全体的に減少しており、経営状況が「昨年より改善した」と回答した学校は0校で、「悪化した」と回答した学校が最も多く、6校だった。

減少の要因として、学校への不適合や、親の仕事の都合による児童生徒の転校や編入（外国人学校から他の外国人学校、若しくは外国人学校から公立学校など）、帰国が挙げられるが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、例年より多くの生徒がそうした要因により減少したという回答が多く挙げた。保護者の収入が減少したことで月謝が払えなくなってしまったという状況に対応するため、学校では、生徒の送迎や昼食の用意を家庭で行うことで、その分の費用を免除したり、授業時間を短縮して月謝の割引や値引きなどを行い、児童生徒の退学や公立学校への転校などを最小限に抑える努力をした学校もあった。

ブラジル人学校の多くは、「新型コロナウイルス感染症の影響で経営状況により大きな打撃があったことは確かだが、2008年のリーマン・ショックのときに比べると今回は断然良い状況である。」と5月の調査時点では回答していた。

しかし、その後、5月の調査時以降の経営状況をヒアリングしたところ、「5月～7月頃は、行政からの財政支援もあってか、リーマン・ショックのときと比べて影響は軽いと回答したが、コロナの影響は、思いの外長引いており、行政の財政支援も新しいものがなくなったためか、状態は更に悪化している。もはや、リーマン・ショックの時より経営状態は悪い。」と聴取した。

No.	学校名	悪化した	昨年同様悪い	昨年よりは良い がまだ厳しい	昨年と変わりな く問題がない	昨年より良い	その他
1	伯人学校イーエーエス豊橋				○		
2	伯人学校イーエーエス豊田		○				
3	伯人学校イーエーエス碧南				○		
4	学校法人カンティニーニョ学園	○					
5	エスコーラ・ネクター						○
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○					
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	○					
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セテ	○					
9	コレジオ・エマヌエウ	○					
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス			○			
11	カンティニーニョ・ダ・チア・シエシエラ	○					
12	エスコーラ・エジャ・インテラチーヴォ豊橋（通信制）		○				
合計		6	2	1	2	0	1

※その他については、「生徒の減少はあったものの、昨年よりは悪くない」と聴取した。

新型コロナウイルス感染症の影響で学校の経営状況に変化はありましたかという質問に対して「はい」と回答した学校は12校中11校であった。

その要因として、「学習者の減少」、「月謝滞納」と回答した学校が1番多く各9校であった。

➤ 各学校のコロナウイルスの影響による経営状況は以下のとおり

No.	学校名	いいえ	はい	その要因			詳細
				学習者の減少	月謝滞納	その他	
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○					
2	伯人学校イーエーエス豊田		○		○	○	月謝割引を実施。
3	伯人学校イーエーエス碧南		○			○	
4	学校法人カンティニーニョ学園		○	○	○		
5	エスコラ・ネクター		○	○	○		
6	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸		○	○	○	○	感染対策品購入による出費が増加した。
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール		○	○	○	○	感染対策品購入による出費が増加した。
8	エスコラ・ピンタンド・オ・セテ		○	○	○	○	月謝割引を実施。
9	コレジオ・エマヌエウ		○	○	○	○	月謝の兄弟割引を実施。
10	エスコラ・セメンチーニャ・ジェズス		○	○	○		
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・ジェジェラ		○	○	○		
12	エスコラ・エジャ・インタラチーヴォ豊橋（通信制）		○	○		○	月謝滞納をしているが通学を続けている生徒がいる。
合計		1	11	9	9	7	

A校：昨年末は20人ほどの生徒がいたため、今年よりは良かった。コロナ以降は、昨年より悪くはないが、少し悪化したといえる。学校は月謝で運営しているので生徒が減少すると困る。

B校：授業を続けていくために政府から要請された対策はしっかり守り、学生を半分ずつのグループに分けて、半数は学校で、もう半数はオンラインで授業を続けた。経営状況ではコロナの影響は大きく、生徒数の減少とともに保護者による月謝の滞納などが理由である。先生たちの給与を期日までに支払うために授業時間を短縮した。また、学校側は保護者と話し合い、自宅でオンライン授業を受けてもらっていたため、交通費と食費を削減して月謝料を下げ対応した。しかし、今回のコロナ危機はこれまでの危機とはまったく違う。2008年のリーマン・ショック前には80人程度の生徒が在籍していたが、大量解雇の影響により生徒数は半数程度まで減少した。今回は政府のさまざまな支援のおかげで、ダメージは小さかった。

- C校：経営悪化の一番の原因は保護者の解雇や仕事の減少によって子どもを辞めさせられたり、公立学校に転校させたり、帰国したりしたことである。学校側としては、就学前の子どもたちに関しては辞めてもそんなに悪影響はないとしても、小学生の子どもたちにはできるだけ辞めさせないよう、学校側は割引などを提示して保護者と話し合いをしてなんとか退学しないよう促してきた（2人兄弟の月謝を1人分だけ請求するなど）。今年からコンピューターの授業を導入する予定であったが、コロナの影響で機材が買えなくなってしまった。事務室のパソコンも故障しているが、新しいものも買えない状態。
- D校：昨年度より経営状況が悪化した。学習者の減少や保護者による滞納は常にあるが、今年にはさらに感染症対策として電子体温計やアルコール消毒等の購入が必要になり、出費が増えたことも悪化の原因となっている。
- E校：コロナの影響で生徒の数に変化があったとは思えない。2008年のリーマン・ショックのときのほうが事態は大変だった。例年通り、保護者の就職先によって引っ越しなどを繰り返す家庭が多いため、児童生徒の数は常に増減する。5月時点の生徒数は調査票記載のとおりであるが、ヒアリング時点の現在は200人弱となっているため、平均的であると考えられる。しかし、コロナの影響で仕事を失った家庭に対して児童生徒の退学を防ぐため、4月から月謝の割引をするなど対応をとってきたため経営状況は比較的に悪化した。
- F校：新型コロナウイルス感染症の影響で児童生徒が減少したとは感じられない。今年1月から今現在まで平均的な生徒数を保っている。しかし、コロナの影響で不就学となっている生徒がいると聞いている。また、1月に帰国した生徒もいるが、本国でコロナの状況が非常に厳しい状態であるため、再び来日する予定である。
- G校：経営状況は「昨年と変わりなく、問題ない」としているが、やはり新型コロナウイルス感染症の影響により変化はあった。その理由として、保護者は仕事をなくしたため、コスト削減のため、通常を送迎費用を免除したり、全日制授業から半日制授業に変更したりしたためである。

(3) 学校内のコミュニケーション言語

➤ 各学校内の使用言語は以下のとおり

No.	学校名	ポルトガル語	日本語	スペイン語	フィリピン語	英語	その他
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○	○				
2	伯人学校イーエーエス豊田	○					
3	伯人学校イーエーエス碧南	○					
4	学校法人カンティニーニョ学園	○					
5	エスコーラ・ネクター	○	○			○	
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○	○			○	
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	○					
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セテ	○					
9	コレジオ・エマヌエウ	○					
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス	○					
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シェジェラ	○					
12	エスコーラ・エジャ・インテラチーヴォ豊橋（通信制）	○					
合計		12	3	0	0	2	0

(4) 学校の役割

➤ 各学校の「外国学校の役割は？」への意見は以下のとおり

No	学校名	母国の文化と母語を教える	子供たちが帰国した際に学校について行くよう準備する	日本の学校に入った際に学校について行くよう準備する	日本の学校の受入体制が整っていないため、それを補う	その他	内容
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○	○		○	○	自己主張のできる完全な社会人を育てる
2	伯人学校イーエーエス豊田	○	○		○		
3	伯人学校イーエーエス碧南	○	○	○		○	留学/海外での大学入学
4	学校法人カンティニーニョ学園	○	○		○		
5	エスコーラ・ネクター	○	○		○		
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○	○	○			
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	○	○	○	○		
8	エスコーラ・ピントンド・オ・セテ	○	○				
9	コレジオ・エマヌエウ	○	○				
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス	○	○	○	○		
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シエシエラ	○	○	○	○		
12	エスコーラ・エジャ・インテラチーヴォ豊橋(通信制)		○			○	進学準備
合計		11	12	5	7	3	

(5) 生徒について

ア 生徒数

➤ 調査対象の12校における各学校の生徒数は以下のとおり

No.	学校名	就学前	基礎	中等	合計
1	伯人学校イーエーエス豊橋	8	112	68	188
2	伯人学校イーエーエス豊田	5	106	87	198
3	伯人学校イーエーエス碧南	8	165	118	291
4	学校法人カンティーニョ学園	3	113	37	153
5	エスコーラ・ネクター	1	9	3	13
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	4	7	5	16
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	17	43	28	88
8	エスコーラ・ピントンド・オ・セテ	13	33		46
9	コレジオ・エマヌエウ	14	10		24
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス	40	33		73
11	カンティーニョ・ダ・チーア・シエシエラ	50			50
12	エスコーラ・エジャ・インテラチーヴォ豊橋（通信制）		4	26	30
	小計	163	635	372	1170
	合計	1170			

イ 生徒の国籍（人数で表しています）

➤ 各学校の生徒の国籍は以下のとおり

No	学校名	ブラジル	ペルー	フィリピン	日本	その他	合計
1	伯人学校イーエーエス豊橋	188					188
2	伯人学校イーエーエス豊田	198					198
3	伯人学校イーエーエス碧南	291					291
4	学校法人カンティーニョ学園	152				1	153
5	エスコーラ・ネクター	12			1		13
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	16					16
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	85	1		2		88
8	エスコーラ・ピントンド・オ・セテ	46					46
9	コレジオ・エマヌエウ	24					24
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス	73					73
11	カンティーニョ・ダ・チーア・ジェシエラ	45		2	2	1	50
12	エスコーラ・エジャ・インテラチーヴォ豊橋（通信制）	30					30
合計		1160	1	2	5	2	1170

A校：一般の保育所の空きがなく、保護者は子どもたちを預けて働かなければならないため、ブラジル人学校に預けている。

B校：国際結婚であり、父親は日本国籍だが、子どもをブラジル人学校に入学することを承諾した。

C校：両親それぞれ別の国籍であるため、子供の国籍はわからないケースがある。

## ウ 特別支援・学齢超過

- ▶ 調査対象校全校を合計した生徒数の内、特別支援が必要と思われる生数(診断書の有無を問わない)は以下のとおりである。

No.	学校名	就学前	基礎	中等
1	伯人学校イーエーエス豊橋	1	4	1
2	伯人学校イーエーエス豊田	1	9	2
3	伯人学校イーエーエス碧南	1	9	3
4	学校法人カンティニーニョ学園	0	4	1
5	エスコラ・ネクター	0	1	0
6	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸	1	1	1
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	1	3	1
8	エスコラ・ピンタンド・オ・セテ	1	3	
9	コレジオ・エマヌエウ	1	0	
10	エスコラ・セメンチーニャ・ジェズス	3	0	
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シェシェラ	6		
12	エスコラ・エジャ・インテラチーヴォ豊橋(通信制)		0	0
小計		16	34	9
合計		59		

### 【特別支援】

- A校：就学前では他の子どもたちに暴力を振るう自閉症の疑いのある児童が在籍していて、保護者には脳神経内科を勧めたが子どもがまだ小さいからだという理由で障害があることを認めておらず、診察に連れて行ったかどうかは不明である。基礎教育では何人かいるが、すでに「こどもサポート教室きらり」や日本人の精神科やブラジル人の心理カウンセラーのもと治療を受けている。これくらいの年齢になると保護者の理解度は少し高まる。
- B校：特別支援の児童生徒を専門的に対応できる方がいないため、特別支援が必要な児童生徒の障害の度合いによって受け入れを検討している。在学中の児童生徒は個人で心理カウンセラーなどと治療を行っている。
- C校：特別支援の子供については自閉症である。
- D校：就学前の児童1人は診断があり、保護者も認識している。他の3人は基礎教育(4年生と8年生)の児童生徒であり、すでに治療中である。
- E校：現在は1割にあたる6名の児童が自閉症などで特別支援を必要としている。児童発達支援のこどもサポート教室きらりと協力して支援に携わっている。
- F校：各課程に1人～3人の特別な学生がいる。ほとんどがすでに診断されているケースであるが、学校側が異常に気づき保護者と相談する場合は保護者によっては理解を得られない。該当する子どもの保護者には、協定を結んでいるONE LIFEやNAK(きらりと系列)を案内している。

➤ 学齡超過の生徒数は以下のとおり

No.	学校名	基礎	中等
1	伯人学校イーエーエス豊橋	0	0
2	伯人学校イーエーエス豊田	0	0
3	伯人学校イーエーエス碧南	0	1
4	学校法人カンティニーニョ学園	0	0
5	エスコーラ・ネクター	0	2
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	0	1
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	0	1
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セテ	0	
9	コレジオ・エマヌエウ	0	
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス	0	
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シエシエラ		
12	エスコーラ・エジャ・インタラチーヴォ豊橋（通信制）	0	0
小計		0	5
合計		5	

【学齡超過】

- A 校：日本の高校に通っていた生徒が一人いたが、日本語能力が十分ではなかったため、ブラジル人学校に編入して、1年生として頑張っている。
- B 校：これまでずっとブラジル人学校に在学している 19 歳の学生が一人いる。
- C 校：15 歳と 16 歳の生徒が在学していたが、既に帰国している。
- D 校：日本語能力がなく、日本の公立学校（高校）について行けなかったため、ブラジル人学校を選択したが、2 人とももうすでに帰国している。日本の景気が悪くなるという噂が流れたため、子供たちをブラジルに帰らせたが、保護者は日本に残った。
- E 校：ブラジルから来日した 17 歳の学生が中等教育の 1 年生に入学することになった。本国でしばらくの間不就学だったため年齢に合わない学年に入学することになった。

## エ 生徒の増減

2019年5月1日から2020年4月30日までの期間中に発生した生徒の増減については以下のとおりである。なお、この調査期間は文部科学省による学校調査を基準に設けているが、ブラジル人学校の元来の学校周期は2月～12月となっている。

### ▶ 各学校の増加した子供の数は以下のとおり

増加した子どもの数								
新規入学			系列校からの進学			公立学校等から編入		
就学前	基礎	中等	就学前	基礎	中等	就学前	基礎	中等
53	122	54	1	66	31	7	59	10
外国人学校から編入			不就学・自宅待機			その他・不明		
就学前	基礎	中等	就学前	基礎	中等	就学前	基礎	中等
13	66	25	26	10	30	0	2	2
<b>合計</b>	577							

### ▶ 各学校の減少した子供の数は以下のとおり

減少した子どもの数								
卒業			外国人学校へ編入			公立学校へ編入		
就学前	基礎	中等	就学前	基礎	中等	就学前	基礎	中等
45	118	116	3	50	11	48	51	1
帰国			不就学・自宅待機			その他・不明		
就学前	基礎	中等	就学前	基礎	中等	就学前	基礎	中等
13	72	33	6	15	25	24	11	33
<b>合計</b>	675							

[増加した子どもの合計数 (577人)] - [減少した子どもの数 (675人)] = -98人  
となっており、減少した子どもの人数の方が多いことがわかる。

## 【増減】

- A校：コロナ関係では1年生の生徒の母親が職を失い、子供を公立学校に編入させた。また、月謝を支払わないまま子供をやめさせる保護者もいる。
- B校：昨年度から生徒数が減少している。例年だと、年度明け（1月～2月）にはたくさんの学生を受け入れているが、コロナの影響で今年あまり新規入学者がなかった。両親の仕事減少の影響で3か月間学校を休んだ学生もいたり、公立学校に転校したりした児童生徒もいた。
- C校：この学校は新型コロナウイルス感染症により経営状況が急激に悪化した。生徒数は半数ほど減少し、教師も4人ほど解雇した。

- D校：基礎教育の「他の外国人学校へ編入」の一番の理由として、昨年度、手続き上のトラブルが発生し、ブラジルから取り寄せている教材が大幅に遅れて保護者が不満に思い、子どもたちを転校させた。対策として代理店を通して注文することになっているが、費用が高くなってしまふ。就学前の課程で不就学になってしまった子どもが2人については、保護者の失業により学校を通えなくなったからである。
- E校：基礎教育Ⅱ（※本報告書2ページ参照）からブラジル人学校に入学する児童生徒が多い。本国に帰国する準備のため、もしくははじめが原因だと思われる。また、家庭の経済的な事情により、悪化すれば日本の公立学校に転校させたり、良くなればまたブラジル人学校に編入したりすることが頻繁にある。児童生徒数は年度末に大幅に減少するが、年度始めには再び増加する傾向がある。

### 【不就学】

- A校：日本の学校に馴染まなかったため、12歳から不就学となっていた女子生徒が15歳のときに本校に入学したが、8か月程度通った後帰国するといつて学校を退学している。

(6) 卒業後の進路状況

➤ 中等教育課程を修了した生徒は116名おり、進路状況は以下のとおり。

No	学校名	中等教育卒業後の進路						合計
		日本の 大学	外国人 学校※	母国の 大学	就職	日本国 外	その他/ 不明	
1	伯人学校イーエーエス豊橋	2	2	5	20	0	0	29
2	伯人学校イーエーエス豊田	0	0	0	22	0	4	26
3	伯人学校イーエーエス碧南	1	1	3	20	1	5	31
4	学校法人カンティニーニョ学園	0	1	0	10	1	1	13
5	エスコーラ・ネクター	0	0	0	1	0	0	1
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	0	1	1	0	0	0	2
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	0	0	0	4	2	0	6
8	エスコーラ・ピントンド・オ・セテ							0
9	コレジオ・エマヌエウ							0
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス							0
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シェジェラ							0
12	エスコーラ・エジャ・インテラチャーヴォ豊橋（通信制）	0	6	2	0	0	0	8
合計		3	11	11	77	4	10	116

【進学】

- A校：高校卒業後、1人は日本にあるブラジル人学校（通信大学）に進学したが、ほとんどの生徒は日本で就職している。特にマクドナルドでアルバイトとして働くことが多い。学校の紹介で1人がレストランの正社員として勤めている。
- B校：在留資格や仕事のことなどの情報についてはよく語られるが、日本の奨学金制度の情報はあまり聞かないので、まだまだ必要である。しかし毎年1人～2人の学生が日本の大学に進学している。また、連絡がとれる学生とは本国ブラジルでの進学について確認している。
- C校：卒業生のほとんどが就職している。その過半数は大学に進学するための資金集めが目的である。卒業生のうち1名は日本の大学に合格している。1名はポルトガルで医学を専攻するため、ポルトガルに渡った。1名はイギリスへ留学に行った。しかし、これまでの卒業生の中には数人、本国ブラジルで医学や歯科学、有名な連邦大学で心理学などを専攻している。日本にはブラジルの通信大学がいくつか存在するが、提供されている専攻科もが限られるため、学生たちはあまり興味を示さない。ご家庭の支援や金融に関する知識がある学生はしっかり進学できている。
- D校：卒業生が2人いたが、2人とも就職している。うち1人は資金集めをしてから帰国するかアメリカで勉強を続けるかどうかはまだ決めていない。もう1人帰国した。

- E校：ほとんどの児童が日本の公立学校に進学するため、最終学年（6歳）には保育園に空きが出ると転校してしまう。卒業した児童のうち、8人は公立小学校に入学、2人が帰国、1人は他のブラジル人学校に転校した。
- F校：中等教育では6人の卒業生がいたが、1人も大学へ進学せず、ほとんどが就職という道を選んでいる。進学しない理由として、まずは言語の問題。日本にあるブラジルの通信大学という選択肢があるが、生徒たちのモチベーションが低かったり、また就職してすぐお金を稼ぐほうが魅力的だったりする。
- G校：数名が大学へ進学する中、20人ほどが就職した。正社員となった1人以外は、派遣社員として就職している。また、1年ほど働いてから帰国したり、将来留学を目指すために資金集めの目的で就職したりする学生もいる。

### 【進学支援】

- A校：年2回、日本の大学の情報について講演会を行っている。
- B校：本校では3年前にキャリア教育を目的としたプロジェクトを立ち上げており、日本の大学の校長先生方や教師の方をお招きして講演会を開催している。今年はエンブラエル社（ブラジルの航空機メーカー）のエンジニアからお話を伺う予定となっている。このプロジェクトは「夢を見る」ことを推進している。このプロジェクトの他に、年2回大学について講演会を開催している。1回は日本の大学もしくは海外の大学を取り上げ、もう1回はブラジルの大学について実施している。保護者向けの理解講座も実施している。教員のための講演会も毎年テーマを変えて開催している。また、基礎教育の児童生徒を対象にマネー研修会をスタートさせる予定もある。
- C校：9月から進路指導の講演会を開催していく予定であり、8月31日には学校法人NIPPON ACADEMYより進路について講演をしてもらうことになっている。
- D校：いろいろな大学からコースの紹介やライフプランなどについて講義してもらっている。7月にはマネーセミナーも実施する予定である。

(7) 日本語学習

ア 日本語学習時間

➤ 各学校の日本語学習時間は以下のとおり

No.	学校名	時間/週						
		就学前	基礎		中等			
			基礎 I	基礎 II	1, 2 年生	3 年生		
1	伯人学校イーエーエス豊橋※、※2	×	3 時間	1 時間 30 分	45 分	×		
2	伯人学校イーエーエス豊田※	×	3 時間	1 時間 30 分	45 分	×		
3	伯人学校イーエーエス碧南※	×	3 時間	1 時間 30 分	45 分	×		
4	学校法人カンティニーニョ学園	45 分	45 分	45 分	×	×		
5	エスコーラ・ネクター	×	8 時間		4 時間			
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	4 時間	6 時間		6 時間			
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	×	5 時間		3 時間			
8	エスコーラ・ピントンド・オ・セテ※3	×	45 分	45 分				
9	コレジオ・エマヌエウ	4 時間	6 時間					
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス	1 時間	2 時間					
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シェシエラ	5 時間						
12	エスコーラ・エジャ・インテラチーヴォ豊橋 (通信制)	×			×			
日本語教育を実施している学校の平均学習時間/週		3 時間			4 時間	3 時間	2 時間 30 分	4 時間 15 分

※：1 年生は 1 回/週 45 分、2, 3, 5 年生は 2 回/週 45 分、4 年生は 4 回/週 45 分の学習時間がある

※2：中等部 3 年生は受験の勉強などがあるため、日本語の授業は行っていない。

※3：希望者には午後の時間に補習授業が行われている。

A 校：N2 の合格者がいたが、すでに帰国している。

B 校：就学前の課程では日本語の授業は行われていない。基礎教育では週 1 回 45 分授業を設けている。さらに、希望者には月曜日から木曜日の午後、補習授業に参加することができる。日本語能力試験 N1 に合格した生徒はいるが、ブラジルに帰国する予定であるため、引き続きブラジル人学校へ進学すると思われる。

C 校：以前は日本語学習支援基金をもらっていたが、日本語教師が変わったため要件を満たすことができなくなった。しかし現在活躍中の日本語教師は日本語指導者の雇用助成の要件を満たしているため、また申請したいと考えている。

D 校：保育士の資格がある日本人の先生を雇って日本語指導を行っている。服部公益財団が保育士の報酬の一部を負担している。5 歳から 6 歳の児童には午後 1 時から 5 時までの 4 時間を通して日本語の授業を受けさせている (音楽やダンスなども含む)。

E 校：日本語能力試験 N1 や N2 の合格者は 3 人いて今後日本の大学に進学する予定である。

## (8) 健康診断

### ア 子どもへの健康診断

学校によって健康診断の実施状況は大きく異なっている。元々ブラジル人は健康診断に馴染みがなく、学校責任者の多くは健康診断の実施に興味があると答えた一方で、実施に至るまでのノウハウに困っていたり、費用が発生するために保護者からの理解が得られないといった問題に対応するため、比較的低価格で実施できる機関が見つからないという意見があった。

また実施していると答えた学校でも、実施者が教員であるなど、専門的なサポートを受けられていない例もある。

➤ 各学校の子供への健康診断は以下のとおり

No.	学校名	生徒の健康診断											
		有無	身長・体重	視力・聴力	栄養状態	歯・口腔の病気及び異常	眼の病気及び異常	顔・耳・鼻・口・喉・皮膚の病気	結核	心臓の病気及び異常	尿	背骨・胸の骨格の病気及び異常	その他
1	伯人学校イーエーエス豊橋	×							○				
2	伯人学校イーエーエス豊田	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
3	伯人学校イーエーエス碧南	×											
4	学校法人カンティニーニョ学園	○	○	○			○			○	○	○	
5	エスコラー・ネクター	○	○	○	○		○	○	○		○		
6	エスコラー・パウロ・フレイレ瀬戸	○	○		○		○						
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	×											
8	エスコラー・ビンタンド・オ・セテ	○	○	○		○	○	○	○		○		
9	コレジオ・エマヌエウ	○	○										
10	エスコラー・セメンチーニャ・ジェズス	×											
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・ジェシエラ	○	○	○	○	○	○	○			○		
12	エスコラー・エ ज्या・インテラチーヴォ豊橋(通信制)	×											
合計		7	7	5	4	3	6	4	3	1	5	2	0

A校：毎年8月頃に光生会病院で学生と職員の健康診断を行っている。学校が負担している。

B校：健康診断については、愛知県済生会リハビリテーションのお医者さんや看護師さんが学校に来て実施している。問診票はポルトガル語で書かれたものはあるが、通訳は日本語の先生が行っている。今年はコロナの影響で実施しない予定。

C校：毎年 MICA という NPO 団体のご協力のもと、学校の近くにある保見交流館で健康診断

を実施している。保護者は500円負担している。

D校：学校独自の評価を行っている。毎月身長や体重測定を実施し、目の異常は授業中に先生が気づいたりする。学習者が毎日持参するお弁当は学校で温められているため、栄養状態を把握している。健康診断を行わない理由はお金の問題である。認可外なので市から補助金をもらっていない。ただ、一度市や教育委員会にあたってみたいという意識はある。

E校：健康診断実施にあたり、やり方がわからない、情報がない。

F校：例年通り、10月～11月頃に浜松市の医療センターで結核の検査を実施しているが、できれば健康診断も県内でやりたいと思っている（現在は実施していない）。難航している点として、健康診断をやってもらえる機関が見つからないということ。現在は名古屋の医療機関と交渉中である。

G校：学生と職員の健康診断は実施していない。提携先の機関がないことと距離の事情が理由である。しかし、現在は、名古屋のクリニックと交渉中である。

## イ 教職員への健康診断

➤ 各学校の教職員への健康診断は以下のとおり

No.	学校名	教職員の健康診断											
		有無	身長・ 体重・ 腹囲	肝機 能検 査	視 力・ 聴力	血中 脂質 検査	結核	血糖 検査	血圧	心電 図検 査	尿	貧血 検査	胃の 病気 及び 異常
1	伯人学校イーエーエス豊橋	×											
2	伯人学校イーエーエス豊田	○	○		○		○		○		○		
3	伯人学校イーエーエス碧南	×											
4	学校法人カンティニーニョ学園	○	○		○	○			○	○	○	○	
5	エスコーラ・ネクター	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	×											
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	×											
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セテ	×											
9	コレジオ・エマヌエウ	×											
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス	×											
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シエシエラ	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
12	エスコーラ・エ ज्या・インテラチーヴォ豊橋(通信制)	×											
合計		4	4	2	4	3	2	1	4	3	4	3	1

A校：職員の健康診断については、それぞれ保険に加入しているもので、各自でやってもらっている。

B校：学校でできることはやっている（身長・体重測定）が、他の機関などでやってもらえる、交渉できるということは知らなかった。

➤ 各学校の健康診断の詳細は以下のとおり

No.	学校名	毎年行われるか	時期	実施場所			実施者		
		はい		学校	病院等	その他	学校	病院等	その他
1	伯人学校イーエーエス豊橋	-							
2	伯人学校イーエーエス豊田	○	決まっていない		○	○	○	○	
3	伯人学校イーエーエス碧南	-							
4	学校法人カンティーニョ学園	○	8月		○		○		
5	エスコーラ・ネクター	○	4月		○		○		
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○	毎月	○			○		
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	-							
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セテ	○	7月			○			○
9	コレジオ・エマヌエウ	○	決まっていない	○			○		
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス	-							
11	カンティーニョ・ダ・チア・シエシエラ	○	4月		○			○	
12	エスコーラ・エジャ・インテラチーヴォ豊橋(通信制)	-							
合計		7	0	2	4	2	5	2	1

(9) 地域との連携

ほとんどの学校が地元消防署や警察署との繋がりを持ち、一部では防災訓練等を行っていることがわかった。一方で近隣の学校や外国人支援団体（NPO 団体等）との関わりはあまりないようであった。

ア 避難訓練

➤ 各学校避難訓練実施状況は以下のとおり

No.	学校名	防災訓練
		有無
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○
2	伯人学校イーエーエス豊田	○
3	伯人学校イーエーエス碧南	○
4	学校法人カンティニーニョ学園	○
5	エスコーラ・ネクター	○
6	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○
7	一般社団法人サンパウロ国際スクール	×
8	エスコーラ・ピントンド・オ・セテ	×
9	コレジオ・エマヌエウ	×
10	エスコーラ・セメンチーニャ・ジェズス	○
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シエシエラ	○
12	エスコーラ・エジャ・インテラチーヴォ豊橋（通信制）	×
合計		8

- A 校：地域の警察官と親しい関係を保ち、時々警察の依頼により、簡単な文章やパンフレットの翻訳を無償で行っている。
- B 校：学校にグラウンドがないため、体育の授業のために市のコートを2つ借りている。
- C 校：避難訓練については毎年11月頃、先生方が子どもたちを防災学習センター（地震、台風、消火の体験）に連れて行っている。さまざまな機関からパンフレットもいただいております、近隣のブラジル人労働者が学校に立ち寄り情報誌や案内パンフレットなどをもらいに来ている。
- D 校：避難訓練ではやり方に苦戦しているが、学校独自の避難訓練をとして両方の扉から、脱出するシミュレーションを実施したことがあり、成功だった。それとは別に、事故、自動車、火事などの保険には加入している。
- E 校：学校では避難訓練は実施していない。最近講演会（防災など）の開催の依頼をするために愛知県警に連絡し、ポルトガル語が堪能の警察官が学校を訪れ、後日日程調整をすることになった。
- F 校：学生たちを消防署に連れて行ったり、校内でも訓練を行ったりしている。避難所の場所の見学も行っている。
- G 校：9月頃に日本語授業の一環として避難訓練・災害などの活動は行っている。文化的背

景から集団行動に対する理解があまりなく、整列をして自分たちの仲間の確認をするということも指導している。先日は3人の警察の方が学校を訪れ、交通標識、交通安全について指導してもらえた。自転車の乗り方のCDもいただいた。新聞でも取り上げてもらった。

- H校： 在名古屋ブラジル総領事館、瀬戸市の社会福祉協議会、三重県の国際交流協会など、外部機関とのやりとりが増えた。社会福祉協議会からは先日マスクをいただいた。また、近年交流が続いている近辺の小学校との交流も充実している。先生方が授業見学を訪れたり、児童の町探検でブラジル人学校に行ってきたというレポートを作成してもらったりしている。学校の秋祭りではブラジル人学校のブース出展をしている。これからも組織的な交流がもっと増えるといいと思う。また、ホワイトボードが劣化しているので、寄贈について情報があればいただきたい。
- I校： 7月14日に消防署の方が学校へ来て、避難訓練等を実施する予定である。
- J校： 学校の敷地にグラウンドや体育館がないため、市の施設を借りているが、抽選であるため、月に1度しか借りられないときもあるので困っている。体育の授業を断念する日が多々ある。一度、近くの公立学校に掛け合ってみてはというアドバイスを受けたが、使わせてもらえる時間帯が夕方か、土日のみである。
- K校： 昨年度は、警察が学校を訪れ、交通安全について指導していただき、今年（8月5日）はドラッグについて指導してもらえた。学校は通訳を手配した。避難訓練は学校では実施しておらず、できれば地震体験車などに来てもらいたいと思っている。

イ その他困ったことや要望など

これまでのアンケート内容以外に現在困っていることや、県への要望はあるか伺った。

- A 校：今回のこの新型コロナウイルス感染症という緊急事態では、日本政府はいろいろ支援してくださって、そしてブラジル人もその支援の対象となっているので、とてもありがたく思っている。
- B 校：去年は精神不安定な子どもたち（自傷行為をする子）がいたが、今年に入ってからはそのような症例はあまり見られなくなった。学生たちは以前より明るくなった気がする。その理由として考えられることは：①新校舎に移行してから気持ちが軽くなったのかもしれない；②学校も以前よりも保護者とは頻繁に連絡も取りあっていること；③心理カウンセラーが良く活躍されている；④新型コロナウイルス感染症の影響によって保護者の就労時間が減少し、より一層子どもたちと一緒に過ごす時間が増えたことなどが挙げられる。これらの組み合わせがこのように状況を変えたのではないかと考えている。
- C 校：学校関係者の間で新たなプロジェクトを実現するため、もう少し広い校舎が必要であるため移転を検討中。
- D 校：通学定期券はまだ購入できない状態。通学定期を理由に入学を諦めてしまう学生がいるため困っている。
- E 校：もう少し日本の大学とブラジル人学校の連携があってもいいと思う。日本は留学生を多く受け入れているが、なぜブラジル人学校の学生たちに目を傾けてもらえないのだろうか。
- F 校：うつ病や不安を抱えている学生がたくさんいる。家庭での問題を学校に持ち込んでいるのではないかと思う。